

2014年の四月から五月にかけて、ロザリ
ンダ・ボルチラとブライアン・ホームズらは
シカゴの都市部に外国貿易地域、市民のため
の協議会と呼ばれる研究部屋を設置した。そ
の部屋はスリーウォールズギャラリーと呼ば
れるワークショップで作られたアート、掲示板、
研究の情報と広大なウェブサイトで構成され
ている。

<http://southwestcorridor northwestpassage.org>

外国貿易地域計画はシカゴの気球製造業で働く人々の
興味から始まり、必要不可欠なはずのその計画はしば
しばネオリベラル、新自由主義の繁栄のため忘れられて
いたが、

より広大で役立つ文化経験をとり得たい願望が集まり
発展してきました。

それは単に特定のアート回遊にとどまらず国際問題に
従事できそれが地元のコミュニティーに直に影響を与
えるものでした。

外国貿易地域は1930年代に外国の管轄区域に指定
されていた港の近隣の地区への関税目的のため設立さ
れ、今ではこの場合の近隣とは直径60マイル以内の場
所と定められています。

外国貿易地域は陸への自由貿易を提供し、したがって
社会的保障や再生産性を特定の区域のみに提供してき
た法律をばっさり切り捨てることに貢献しました。

私たちはこの外国貿易地域が成りてきた過程について
興味があり知識を共有していきたいと思い、そのため
にはこの研究が法的、事業的ではなく文化的であり社会
的でなければなりません。

シカゴでの長年の調査によって私たちはこの研究につ
いて学術的にしる芸術的にしるその道のどんな専門家
よりも深い見解を得たと確信しています。私たちが探究
しているものは移民運送計画(によりイリノイ・ミシガン
運河が1848年に完成)や土着の連水陸路のルート開
発により育まれてきた産業発達回廊地帯(内陸国など
が他国内を通過して海港などに達する細長い地域)の時
代背景にある変化と植民の骨組みです。

経路依存性という考えは 発達段階において状態、方
向、基準、限度によって変遷される傾向にある集合体が
どのように進むかの過程を理解するのに大いに役立ち
ました。

経路依存症はただ単に、物は物がある方向に進むとい
う単純なことではなく、テクノロジーや形あるものとして
造られてきたものの歴史背景がしばしば次の時代への
発展に決定的な影響力を及ぼし、さらに言えば人工水
路から鉄道線路、鉄道線路から幹線道路のような劇的か
つ革命的な変化が起こった後でさえも思いもよらぬ影
響を与えるのです。

こういった変化は文化から文化へとテクノロジーも同様
に、持越してゆく付加的なものなのです。このことより私
たちは多かれ少なかれ、植民政策起こすにしろ大規模
な農業計画に実行するにしろ経路に依存しているとい
うことが分かります。

しかしながら、シカゴという都市が生まれる以前、人工
水路や鉄道線路が創られる以前、ミシガン湖の水が川
から次々と流れてくる廃棄汚染物によって汚される前
にもそこに世界が存在していたことも事実なのです。その
土地の歴史的变化を描写していく中、しばしば湿地帯
が出来る過程がシカゴが創られる前の世界の存在と何
事にも影響されない自然が及ぼす力を知る手がかりと
して役に立ちました。

経路について興味深いことは理念や弁証論法からくる
相違点です。

経路とは時間のようなもので終わりから始まりに、どん
な方向にだって歩き直すことができるのです。今まで気
にかけてすらなかった地域に住む人々に会い己の過去
の境遇と照らし合わせながらこれから何が未来に害を
生むことになるだろうかと思いに耽りながらも歩いてゆ
けるのです。

さらに経路とは目的地を意味し、分岐の際選ばれず捨
てられていった選択肢を土台として、肯定的な分岐と今
まで生じた害となる可能性孕んだ全てが繰り返され再
現されてしまう潜在、両方含まれているのです。

歩んでいくことははまさに領土を広げていく経験を積む
ということなのです。

こういった社会活動における経路探索経験を培うため
に私たちは研究部屋の掲示板に告知し、毎回グループ
でお互いの知識や意見の交換し、観察し合います。
過去の経験から受け継がれてきた記憶の循環の中で意
見を交換することによって互いに影響を及ぼし物事を
理解しようと試みる行動、それが歩むということなので
す。

私たちはかれこれ200年間歩いてきました。

しかし、時を同じくして芸術家であり活動家のジョン・ジ
ョーダン氏はこう主張しています。

「我々はこのこという場所に存在してきたのではなく、種
族としてこれまで歩んできた道が及ぼす結果にあれこれ
論じる必要すらなかった」と。

これに対しどう答えるべきでしょう。

地方、国家、大陸、はたまた全世界規模のいわゆる発展
ため、どうすれば有意義な会談ができるのでしょうか。つ
まりはどのような政策、行動理念や文化活動が地球環境
にとって適当なのでしょう。

— ブライアン・ホームズ